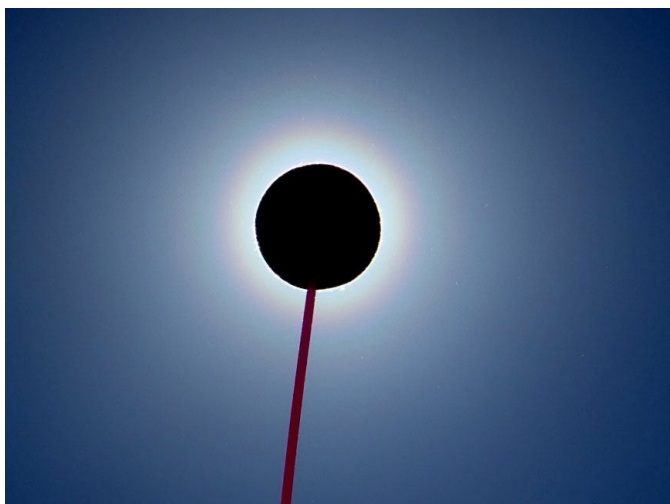


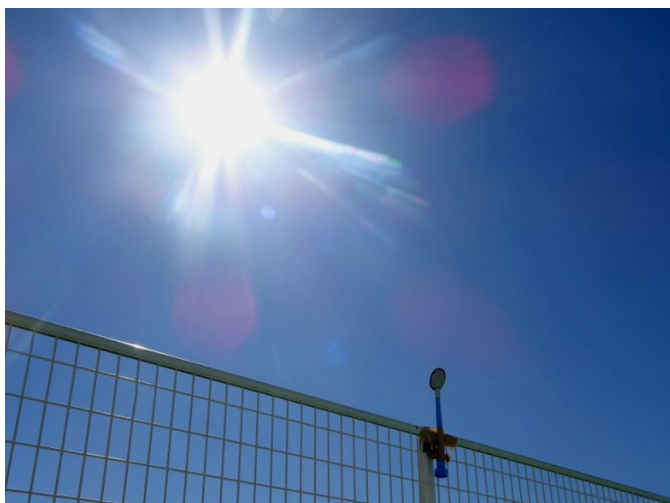
「花粉光環を撮る(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

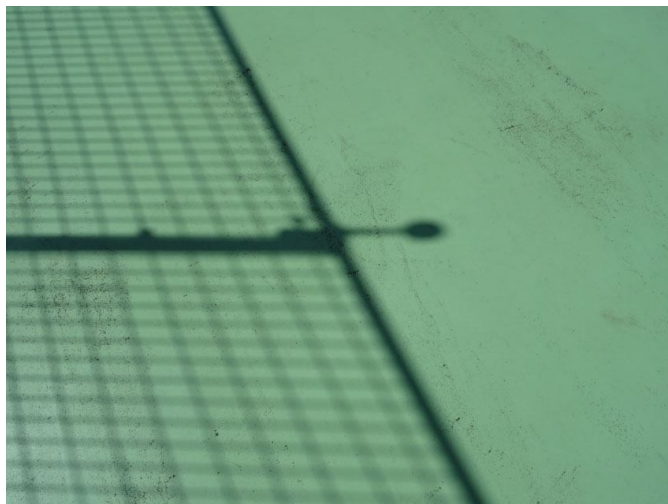
花粉光環を撮影するには、適当な物体で光球(太陽本体)を遮光する必要がある。丸いものが理想だが、これは風景の中にはなかなかない。あっても、それが地上に影を落としていないと、遮光には使えない。



丸い発泡スチロール球は、遮光には適しているが、設置した場所が視線(観測者)から近すぎて、肝心の光環まで隠れてしまい、あまり良い成績ではなかった。



そこで、もう少し大きい遮蔽体を、なるべく高い位置に設置してみることにした。設置したのは、水やり用のジョーロの管とハスロ(先端の部分)だ。これを高さ3mほどの、フェンスの一番高い場所に固定した。これで、地上(屋上の床)のある程度遠い位置に、ハスロの影がうまく落ちていれば、成功だ。高所なので、設置にやや苦労したが、どうやらうまくハスロの影が落ちているようだ。



このハスロの影を使って、何枚か撮影しているうちに、ついに結構良い写真が撮れた。

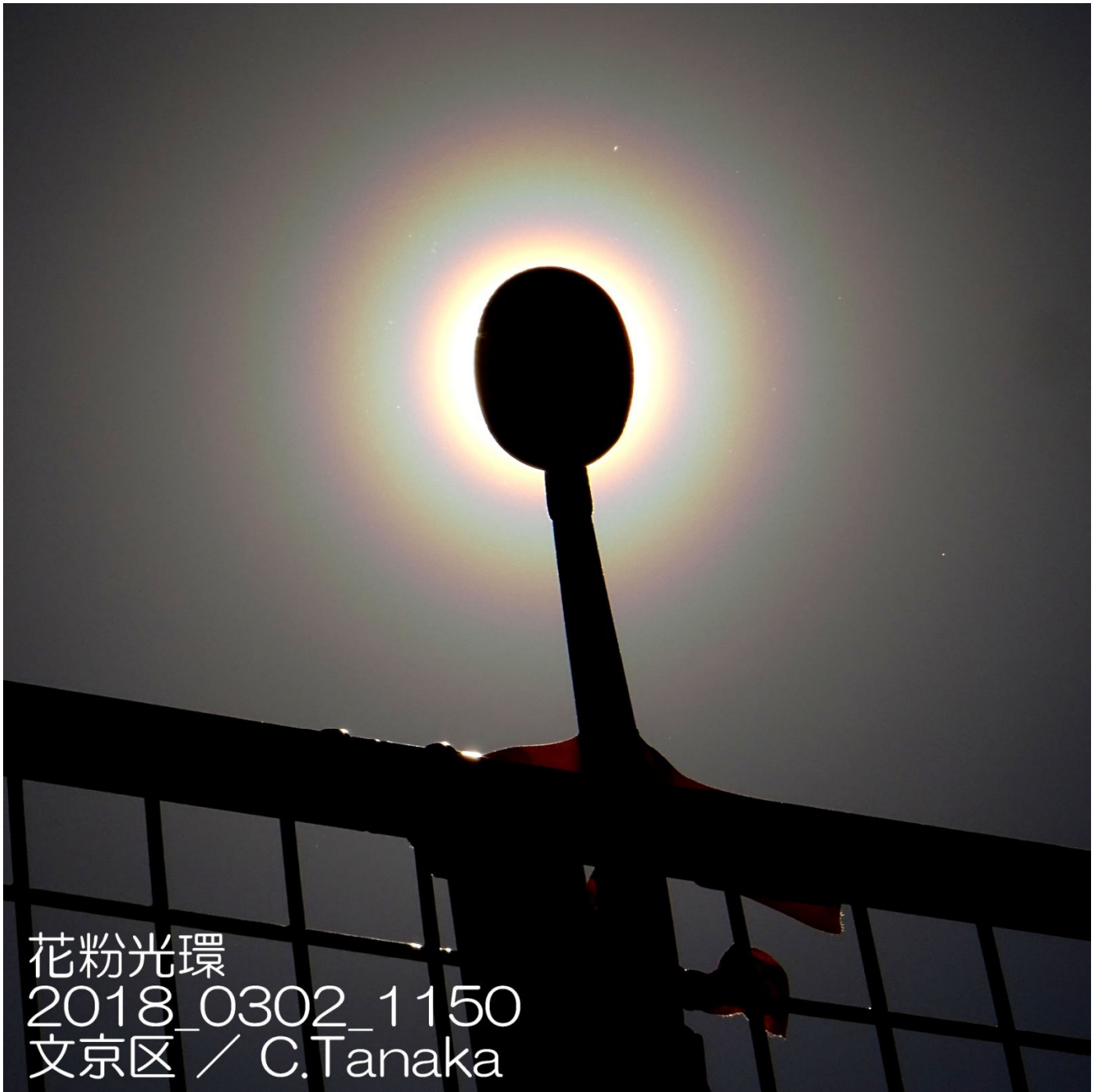


「花粉光環」 ISO=80 1/1600 f=8.0

露出が重要である。この写真はコンパクトデジカメで撮ったものだが、そのデジカメで一番暗い露出で撮っている。まるで夜のようにになっているのは、その為だ。2ページ目に拡大写真がある。



その後も「遮光物」を探して、校内をさまよった。校舎の角は、意外にうまく利用できることがわかった。この方法だと注意深くすれば、肉眼観察も可能だ。



花粉光環

2018_0302_1150

文京区 / C.Tanaka